

あいめーる

SPRING

愛隣館通信

令和4年5月20日発行
発行
社会福祉法人 愛隣園
障害者支援施設 愛隣館
発行責任者 三浦貴子
編集 広報チーム
キャリアピジョン

〒861-0551
熊本県山鹿市津留 2022
TEL 0968-43-2771
FAX 0968-43-2793
http://aileans.com
E-mail
ailinkan@magma.jp



三位決定戦：競技アシスタントが付き勾配具（ランプ）使用。 左：福原さん 右：山下さん（アシスタントは中野美香）

初めてポッチャの競技に参加して、大会の雰囲気を感じることができ、次回はもっと上位を目指せれば、と車中で反省会をしながら帰路につきました。

私は、今回「アシスタント」という立場で福原さんと出場しました。狭い枠の中に福原さん・私とランプを設置し、私は後ろ向きで一切正面を向くことが出来ません。コート内を見たり、選手にシエスチャーや声掛けをしてしまうと反則行為になり、ペナルティーが課せられてしまいます。福原さんが指示される時だけ行動し、その他は無駄に動けませんでした。試合の内容は全く分かりません。唯一流れがわかる時があります。それは、歓声が上がった時の福原さんのガッツポーズです。今有利なんだと嬉しくなりました。

参加者の中でも一人の障害は最も重いクラスになり、ランプ（ボールを転がす為のスロープ）を使用します。予選では、福原さんが二勝一敗、山下さんが一勝一敗で予選二位。それぞれ三位決定戦に上がり直接対決となりました。これを福原さんが勝利し見事三位入賞されました。

令和四年四月二十四日(日)、熊本県身体障がい者福祉センターにてくまもと障がい者スポーツ大会ポッチャ競技が開催されました。愛隣館から福原隆博さん、愛隣倶楽部から山下四季子さんが大会に参加しました。競技参加者は座位の部で七名、二つのリーグに分かれて予選会が行われました。

ケア課サブチーフ 竹下 真二

第二十一回くまもと障がい者
スポーツ大会ポッチャ競技



館長 三浦 貴子

令和四年度を迎え、新型コロナウイルス感染症の受け止め方にも、日本の社会全体に変化が感じられるようになりました。新規感染者数は、減少傾向とはいえ、まだまだ高く、高齢者、障害者、児童福祉施設関係者に行動の自粛は続きます。二年前の先の見えない不安からは解放されましたが、予防対策をしながら暮らしていくことが責務となりました。

利用者の方々の面会と外出支援は始めました。ご家族と一緒に利用者の表情は満たされておられます。こちらまで一緒に嬉しくなります。

外出の支援も充実して行きたいです。社会の中に生きている実感が持てること、楽しみや選択の機会は全ての人に大切だと思います。

世界では、二月からロシアのウクライナ侵攻が続き、毎日痛ましいニュースを目をこらしています。約二四〇万人のウクライナの障害者の方々は、どこにどうしておられるのかなど。戦争は国家的な人権侵害と聞きますが、まさにそのまますまの事実と胸がさがる思いです。

そんな中、ベトナムの障害児・者に車イスを届ける活動を二〇年来続けた仲間の秀嶋さん(NGOベトナム育英会)からメールが届きました。いてもたってもいられなくなった秀嶋さんは、つてのできた

ポーランドへ向かい、ウクライナ難民の人々の今を見て、何かできることはないかを一心に考えておられます。

東日本大震災の時は、東北へ、私たち九州の支援物資を運び、熊本地震の翌日から益城へ支援に入っ下された方です。その後の、大病を経ても衰えない行動力には衝撃を受けます。メールの話を児童通所スーパームーンの子ども達にも伝えたら、真剣に話を聞いて募金箱を作ってくれました。私たちもここからつながっていききたいと思っています。

ヒューマンライツ委員会

ヒューマンライツ委員会では、利用者主体の理念を軸に、毎月委員会を開き人権とは何かを学び続け、私たち福祉従事者の果たす大事な役割としての、権利擁護の意識向上など、改めて基礎を固めていけるよう活動しております。

今後も、利用者の方々の声や事例に敏速に対応しながら、スタッフ同士で学びを深める中で、愛隣館らしい支援の在り方が定着するように努めてまいります。

新人職員紹介



看護師

中島 愛

看護師として愛隣館で働かせていただく事にな

りました。皆様に優しく教えていただき少しずつ慣れてきました。

職員の方々が笑顔で働いている姿がとても印象的でした。私も笑顔で一生涯がんばっていききたいです。

よろしくお願い致します。



ケア課

池田 博子

今までは、デイサービスで仕事をしていました。

入居施設での経験が全くなく不安や緊張の毎日でしたが、利用者の方々の笑顔や、優しい先輩方に丁寧に指導して頂き、少しずつですが仕事や環境に慣れできています。

日々の業務の中で慌ただしく過ぎていきますが、少しの気付きや思いやりを持って頑張っています。と思っています。



愛隣倶楽部

生野 和良

一月から愛隣倶楽部に配属されました。私は三十七年間、陸上自衛官として勤務し普通科隊員(歩兵)で多くの期間を過ごしました。

定年後、特に目的も無く半ば燃え尽き症候群状態

で勤務していました。その時、予備自衛官訓練で、本館勤務の松本准尉と相居室となったのですが、訓練後、相談などして、「定年後、面白くない日々です」と言ったところ「私の所に来んね。やりがいあるよ」との事で、即、「お願いします」となりました。

自衛官時代、レンジャー訓練ばかりの日々でしたが、災害派遣等で自分でも人の役に立てると思っただ事を思い返し、まだ役に立てる事は未だ有りませんが、一から優しく教えて頂く倶楽部の方に感謝です。

アートブリュット展覧会

Vol.7

開催

ディケアサブチーフ 久武 康博

春がそこまで来ている冬空の下、県立美術館メイン会場第一展示室に、熊本県在住の作家二十五名、約300を超える作品が一堂に集結。アートブリュット展覧会Vol.7開催！ついにこの日が来ました。

これまで携わって来られた会員、関係者など沢山の方々の思い、そして何よりも作家の魂の声が今にも聞こえてきそうです。

館内では相変わらず



「すげー、うー、まじか」といった声から、「はあー」といったため息など、様々な反応が心地よく聞こえてきます。会場入口の野尻さんの作品を行ったり来たりしながら「凄いです」と何度も見られている来場者の方が印象的でした。

期間限定のこの空間には、コロナ禍だからこそ生まれた作品も多々あるように感じます。作品に対する思いや受け取り方は様々ですが、アートブリュット作品には「ご自由にどうぞ」といった大らかな優しいメッセージが含まれているように思います。

愛隣倶楽部浴室に

天井リフト設置

愛隣倶楽部サブチーフ 鈴木 大輔

令和四年二月七日、公益財団法人森

村豊明会助成金事業により、脱衣所から浴室にかけリフトが設置されました。

リフト導入後、浴

室・脱衣所で職員が屈む姿勢が減り、腰への負担が軽減されました。また、これまで移乗に職員が二人

がかりでケアしていた方も、一人で出来る様になり利用者、職員に余裕が生まれました。同性介助を基



本としている為、職員の気持ちのゆとりは利用者の安心感にもつながり、満足度の高まりが感じられます。また、人の手の移乗と比べ、リフト走行の安定感を利用者の安心感にも繋がっています。

入浴計画を含めたこれまでのサービス提供の見直しを行い、利用者にとこれまでより質の高いサービス提供を目指します。

今後も安心、安全なサービスを提供できる様、日々励んでいきます。

健康診断バンザイ！

相談支援専門員 坂田 照美

三月の労働安全衛生委員会のテーマ「生活習慣病と健康診断」にて、私の健康診断の体験を交えて話しをしました。

内容は、十二月三日に日赤健診センターで健康診断を行いマンモグラフィと乳房超音波検査はオプションにて検査、全ての検査が終わり「安心。受付にバイナダーを返したところ「お話しがあるそうです」との声掛けに不吉な予感。インフォームドコンセント

の部屋に通され健診医師より乳房超音波検査、マンモグラフィ検





野尻三正さん
絵を描く時は曇りの日
がベストです。



日永敏子さん
念願の個室に移りまし
た。とても快適です。

日常風景の「コマ」

查にて1cmの腫瘤を指摘され日を置かず精密検査を受けるようにとの説明。話しの内容から「おそらく癌!」だと察しはついた。十二月十三日に日赤乳腺外科を紹介受診。同二十三日に組織生検検査。年明け一月十七日の結果説明で浸潤性乳管がんステージ1との説明。主治医より「これ健診を受けないと分からなかった癌だよ。命には関わらない助かる癌だよ」と言われ「健診バンザイ!ですね」と癌の告知に落胆しつつも早期発見できてラッキーだった、とポジティブ変換した心模様を話しました。自分のため家族のために健康診断を受け、結果で精密検査や再検査の指摘があった際には、後回しにせず医療機関を受診すること。また、日々の健康管理や生活習慣病の予防に努め「豊かな人生を送りましょう」と結びました。

紀の国わかやま文化祭2021

陶芸講師 境喜美代

利用者の皆さんが行っている様々な活動や訓練等、日常の「コマ」を「家族の皆様にご覧いただけるように掲載していきます。(同意を取っています)

令和三年十月三十日(土)〜十一月二十一日(日)第三十六回国民文化祭・第二十一回全国障がい者芸術・文化祭わかやま大会が開催されました。

全国から絵画・書道・写真・立体五部門、計531点の応募。そして来場者にお気に入りの作品を選んで頂きアンケート投票で部門別に「感動大賞作品」が決定されます。

その中に、令和二年度くまもとハートウィークくまもと障がい者芸術展で「心に残った作品」として受賞された方が、全国大会に出品出来る事になります。

今回は、デイケアご利用の高根英子さんの陶芸作品「なかよし家族」が、立体部門120点の中から感動大賞を受賞されました。



全国大会へ二回目の出品で初受賞。「わー嬉しいネ、来年の干支を作らなりたい」と、早速つぎの作りはじめられました。

労働安全衛生委員会

八月「4S・KY活動」、九月「腰痛対策・転倒防止」、十月は歯科衛生士を招いて「口腔ケア」、十一月「ストレスチェック・ハラスメント」、十二月「感染症」、令和四年一月「職場環境改善」、二月「喫煙吸引等の医療的ケア」、三月「健康診断・生活習慣病」をテーマに委員会を開催しました。四月は協会けんぽの管理栄養士・大木良美先生を招いて「免疫力アップで感染症予防の食事」について講話をしていただきました。令和四年度も委員会のメンバー新たに職員の健康や働きやすい環境作りをめざして取り組んでいきたいと思えます。

お知らせ

ご家族の皆様へ

◆ 新年度に入り、利用者の担当スタッフが替わりました。また、三月下旬から四月上旬にかけて部屋替えが行われました。

※詳細につきましては、スタッフまでお問い合わせください。

◆ 令和三年度バレンタイン家族会は、新型コロナウイルスのため中止となりました。遅くなりましたが書面にて報告致しますのでご確認願います。

『あいめーる』の企画・編集は利用者で構成された広報チーム、キャリアビジョンが担っています。